

「木は地球を救う」 — 18

細田木材工業(株)

顧問 細田 安治

◇オリンピック会場の整備

5月25日土曜日、オイスカの幹部の方から「海の森の下刈りに参加しないか」とお誘いを頂いた。オイスカとはご存知の国際協力活動、人材育成活動を推進している(公財)法人のボランティア団体で、今回のイベントは東京都港湾局より「枝払い、剪定、草とりなど<下刈り>をして東京オリンピック会場をすっきりと整備したいので共同で開催しよう」との呼びかけで始まった。オイスカとしてこの活動は、国連生物多様性条約事務局が世界中に呼びかけ、植樹や森づくりを通じて、世界の東から西へ緑の波を広めていく「グリーンウェイブ2019」の一環と環境省に登録され『グリーンウェイブ参加証書』が発行された。

前号でSDGsは北海道下川町のレポートで一区切り(完)でしたが、以上のような次第で「木は地球を救う」SDGsはもう少し続きます。

◇江東区の埋め立て地

当日新木場駅前から海の森公園に向かうバスには、途中乗車の東京都港湾局の課長代理(うら若き女性)と秘書より資料を頂き「海の森」の埋め立ての経緯と運用を知り、今更ながら勉強不足を痛感、この際に江東区埋め立ての歴史について振り返ってみようと思いついた。

荒川放水路西側の東京湾を埋め立ててできた陸地は、夢の島、新木場、辰巳、若洲、そして中央防波堤内側(海の森公園)東京湾最後のごみ投棄場、(中央防波堤外側埋め立て地)がある。



参加証書・文書とも 参照オイスカ資料より

名称	完成年度	面積ha	埋立て方式	投棄ゴミ万屯	現在の利用
8号地	昭和37年	36.4	ゴミ+残土	371	
14号夢の島	昭和41年	325	ゴミ+残土	1034	公園、競技場、焼却場
14号新木場	昭和41年	125	ヘドロ+残土		木材・異業種団地
15号若洲	昭和49年	71.2	ゴミ+残土	1844	ゴルフ場、公園 流通倉庫団地
中央防波堤内側	昭和61年	78.0	ゴミ+残土	1230	海の森公園
中央防波堤外側	平成28年末	199.0	ゴミ+残土	5471	投棄終了
新海面埋め立場	平成28年末	319.0	ゴミ+残土	777	投棄終了

◇ゴミと建設残土で埋め立てられた島

昭和40年代に入り、ゴミで埋め立てられたのは、「夢の島」砂町沖を、ゴミと建設残土を交互に重ねて土地を造る工法で昭和30年代から工事が始まり10年がかりで埋め立てられたが、公害問題が発生しごみ投棄は中止、夢の島で焼却に方針転換したと記憶している。次に今我々が仕事している「木材や」の団地（異業種が数多く進出、いまや「木材や」の団地とは言えない）新木場の埋め立て方式は、ご存知海底の「ヘドロ」をサンドポンプで吸い上げ、建設残土で固めた土地、次の南側の若洲地域は大半が新木場と同じ工法で埋め立てられたが、東側の荒川放水路の河口は若洲ゴルフリンクスゴルフ場として「夢の島」と同じ方式で埋め立てられた。次に領土争い中の中央防波堤内側埋め立て地（海の森公園）と外側埋め立て地がゴミと残土と普通の+肥料を入れ森として育つよう配慮されたサンドイッチ構造で埋め立てられた。

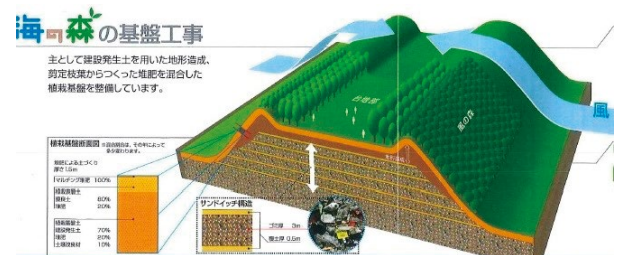
◇東京ゴミ戦争

1971年に当時の美濃部東京都知事の「ゴミ戦争宣言」がきっかけとなりゴミ戦争が始まった。日本が高度成長で浮かれている裏側では、過去には考えられなかった大量のゴミが発生し、既存の施設では処理しきれなくなった。ゴミの大半は江東区に集積され、発生したゴミもすべて江東区のゴミ処理場に運ばれていた。江東区の処理場には、1日に青いゴミ収集車5,000台も押しかけ、江東区内の幹線道路を走り回り、悪臭をまき散らし、交通渋滞、交通事故を発生させた。他の区のゴミが江東区を通過、江東区の地先へ捨てられる。「江東区が他の区の犠牲になっている。他区にも投棄場をつくれ」と、行政はもとよりのこと、議員たちが党派を超えて団結し交代で、ゴミ自動車の通過を阻むべく体を張って座り込んだのは、確か枝川の八枝橋の上だったのでは、筆者はこの状況は昨日のように覚えている。海の森は、ゴミ戦争の歴史を背負って出来上がったものだ。

美濃部都知事のゴミ戦争宣言は1971年今から48年約半世紀前のこと、「歴史は風化する」「喉元過ぎれば熱さを忘れる」と言うが、いま「ゴミ戦争」と言っても、「古い人は忘れ、若い人は知らず」となれば、「忘却の彼方に風化され」てしまう。江東区民は環境改善のためにどれだけ協力したのか。しかも、海の森という陸地を造り、更に緑を植えて百年後の環境美化と、景観の造成に手を貸したのか。「木材や」はどれだけ働き、世の為になったかを知り、未来にも「木材や」はもっともっと世の為に働く場を作る。それには「木材や」は植樹、植栽などのチャンスには大勢参加して、今回のような活動を盛り上げるのが必要、と考えますが、読者のご意見はいかがでございましょうか。

◇領土争い

中央防波堤内側189.3haと外側313.9ha合計503.2haの帰属をめぐる江東区と大田区が領土争いをしており話し合いがつかず司法の場に持ち込まれ、江東区86.2%、433.9ha、大田区69.3ha、13.8%としての調停案が提示されている。江東区はゴミ戦争の経緯から100%を主張、大田区は、「のりしび漁」を中心とした漁業権を盾に地先水面論を主張している。お互い納得できる範囲で和解してほしいものだ。



海の森の土地の基盤、東京都港湾局資料より参照

◇海の森公園の概要

前置きが長くなったが本論に戻る。

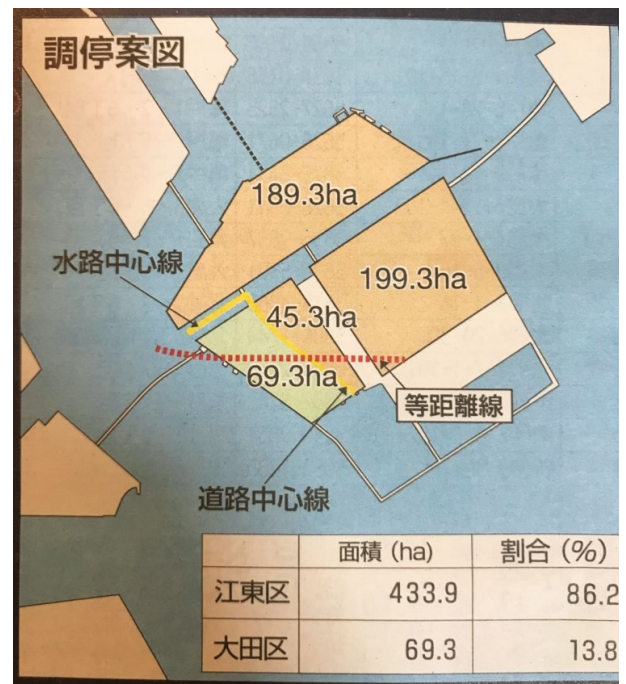
位置としては中央防波堤内側の東側部分を占め、面積約149ha(陸地部分約95ha水域部分54ha)で森をつくるエリアは約50haだ。平成20年5月から植樹イベントを始め、春と秋の1年2回植樹を行った。環境問題に理解のある企業や、ボランティア団体が我も我もと名乗りを上げ、僅か7年で、なんと約24万本の苗木を50ha全てに植えつけを行い、もう植えるところが無くなってしまい、27年度即ち28年3月で打ち切りとなった。植えた苗木の主な樹種は広葉樹が大部分だが、タブノキ、ユズリハ、スタジイ、イロハモミジ、花物ではオオシマサクラ、ヤブツバキ、実がなる木としてヤマグワ、ヤマモモ、針葉樹ではクロマツなど汐風に強い樹種が選ばれた。

筆者は、3回ほど植樹に参加した。資源再利用、今でこそ、環境3R再資源化が叫ばれているが、この島は全くの再資源即ちゴミと建設残土でつくられたのである。木が植えられ地球環境の改善に大きく貢献しているこの島に、100年後この森が大きく育つと、東京湾の名物となり地球環境改善の大きな一助となることに、夢を以て見守っていききたいと存じます。

◇下刈り

いよいよ本番がはじまる。筆者はうっかりして帽子、軍手など暑さ対策不十分の為マゴマゴしていると、先ほどの幹部の方が、ご自分の麦わら帽子と軍手を貸してくださった。なんともお恥ずかしい次第、おかげ様で熱中症にならず助かりました。紙上から失礼ですが御礼申し上げます。

下刈りの地域は「ここを我々オイスカが植えた」と筆者は思い込んだ。剪定はさみの剪定組は、密植密林と化したなかへ剪定をしながら進んで行く。筆者はそこまで勇気がないので、密林手前の草む



中央防波堤内外側 ネット参照



植樹風景、苗木植え付け



下刈り風景

しりを受け持った。スコップで草の根を起こし引き抜く作業だが、これがなかなかの作業だ。草の種類により簡単に抜ける草と、広く根を張った草はなかなか抜けない。一番の難物は、タンポポの1種で根が深く、しかもトゲがある。このタンポポにてこずっていると、幹部の方が、この草は、周りから掘らなければ無理だのご指導頂き、なるほど言われた通りに作業をしたらすぐに抜けた。ここでの教訓「人の言うことは聞かなければならない」

草取りは、草刈とは違う。草刈は、芝刈り機のような機械で刈り取るのが草刈で表面だけ刈り取る床屋のバリカンのようなものだ。根こそぎ刈り取ることはできないのですぐ伸びてくる。一方、草取りは、手で引き抜き、根こそぎ抜き取り、二度と同じ株から、芽が出ぬよう「根絶やし」すること。筆者は、戦時中疎開先で覚えた草取りだ。こんな作業で小一時間過ぎし抜いた草、剪定した枝を集め終了した。

記念撮影を終え、港湾局より、東京オリパラリンピックには、海の森を中心に北側では、ボートレース会場、陸上では馬術競技が行われるとの説明、6,000mの起伏あるコースは、起伏に富みしかもゴルフ場のように芝が張られ更に公園にある芸術作品のような木製のオブジェモドキは、馬術の障害物競争に使われると言う。

また、ボートレースが行われる水面上にかかる橋は橋げたが無く平べったい板状の橋だ。ボートレースのオールがぶつからない様にと、新しく架け替えられたという。

オリパラリンピックはお金がかかるものだ。今日の一日は環境問題について、ゴミ戦争を思い出し、ゴミで埋め立てられできた島に緑が生い茂り、手入れをさせて頂いたオイスカの皆様に感謝申し上げ、下刈りレポートを終わります。完

「海の森公園」ボランティア（令和元年5月25日）



オイスカの集合写真



海の森水上競技場

2017年12月時点でのイメージ図／©東京都
東京2020組織委員会公式ウェブサイトから引用
出典：朝日新聞デジタル

<https://www.asahi.com/paralympics/2020/venue/sea-forest-waterway/>